

保護者研修会「シンポジウム」

コーディネーター：新井立夫（文教大学経営学部教授）

パネリスト：常盤 卓嗣（平塚商工会議所会頭 株式会社トキワヤ代表取締役社長）
城田 孝子（公社平塚青年会議所前理事長 城田法律事務所代表弁護士）
今井 宏明（平塚市産業振興部長）
金森 慶一（県立平塚商業高等学校長）

1 自己紹介等

【常盤会頭】平塚商工会議所の会頭を勤めています。市や県知事に向けて産業に対する意見を具申しています。約130万人が来場する湘南ひらつか七夕祭り（以下七夕祭り）は平塚商工会議所と平塚市役所が共催となり、約1,000人のボランティアが参加しますが、このきっかけは平塚商業高校（以下平商）で、2つ返事でご協力いただき現在に至っています。

【城田弁護士】3年前に平塚青年会議所（以下平塚JC）という町づくり団体で理事長を務めました。20～40歳までの青年経済人が各地域で所属していますが、例えば七夕を地域の宝として年間を通じて育てたいという思いから、食イベント「たから市」を開催し、当初から平商に参加していただきました。子どもたちの仮想の町「ぷち事業」では、2010年から平商と共催してきました。ハイスクール議会の平塚版である平塚スクール議会では、市内の高校生に議員として参加いただいています。

【今井平塚市産業振興部長】平塚市では選ばれる町、住み続ける町を掲げ、特に子育て世代に対して施策を進めています。企業や農業、漁業を活かしてどのように工夫していくかが課題です。七夕祭りと商業祭り等、平商には色々な形でご協力いただいています。産業関連携ネットワークでは平商にも会員になっていただき、現在お菓子の新商品開発を進めています。

【金森校長】平商は全国の商業高校の中でも地域と密接な活動を多く行なっています。多くの学校は商品開発を学校で完結していますが、平商の場合は例えば平塚JCに外部講師として授業に参加いただくなどコミュニティースクール視点での先駆校の一つだと考えています。

2 超スマート社会への変革に向け、それぞれが現在感じる課題と今後への期待

【常盤会頭】七夕祭りは平塚の地域のブランドであり、祭りを通じた繋がりや消費がどう経済と繋がるかを注目しています。生徒が街中でお互いを知り、大人と意見交換し、観光客から感謝されるなど、様々な経験ができるので各校に参加をお願いしています。統計によると企業の寿命は30～35年だそうで、1つのことを継続するのが難しい時代であり、新しい商売や仕事の仕組みがどんどん出来上がってきます。高校生が大人になり、10年20年先の平塚、そして日本を作っていくので、高校教育の中でもニーズにあった取り組みをお願いしたいと思います。

1つ残念なことは、地域コミュニティーとしてすでに一定の役割を果たしている平商は統合されてしまいます。これだけ地域のコミュニティーがしっかり成り立っている学校が統合という名の下に消えてしまうのです。これからのネットワークの組み方は難しいと思いますが、平商と平塚農業高校が統合して2になるのか1.5になるのかわかりませんが、是非考慮していただきたいと思います。

【城田弁護士】私自身も含め、街づくりには無関心で人任せの風潮が強いです。高校生が団体企業の事業に関わることは大切なことで、例えばぷち事業をやるためには企業に自ら交渉し、協力に対してお返しする等、自ら考えて動かないと実現できず、多くのことが学べるとは思います。平塚JCとして協力をお願いしても、学校ぐるみとなると平商が特別かなと感じます。そのあたりが変化すると町全体がよくなるのではと思います。

【今井部長】町を元気にするには若い人達に来てもらうことが必要で、事業者は若い人の発想を非常に必要としています。平商には若い人の考え方を伝えるコンサルタント的な役割を担っていただければと思います。学生は将来是非平塚に戻り、町を支えて頂ければと思います。

【金森校長】インターンシップ1つとっても、各

校が個々に企業と提携すると取り合いになり、企業にも生徒にも迷惑がかかる可能性があります。コミュニティスクールでは現状を生かした形が先決で、平塚地区で情報交換しながら共有できるシステムを県立高校側で考えるべきと感じています。

前任校の小田原総合ビジネス（今の小田原東）のチャレンジショップでは、地域住民が夕方4時以降に学校に入って買い物できましたが、長年住んでいて高校の中に入ったのが初めてという方が結構いらして、地域と連携する際には人材育成、人材活用を含めて考えられるとよいと考えていました。新校では1+1が3になるように一生懸命考えています。

【コーディネーター新井教授】共に育ち、共に学びあう地域の強みとか、各保護者の持っている強みを持ち寄って子ども達を育み、目線の高さをあわせていただくとトラブル等も少なくなると思います。先生方も学校に関係なく目線を合わせればより良い地域連携ができると思います。

3 高校教育や地域の学校教育についての期待について

【今井部長】東海大学と農業・漁業のキャラクターを作ってPR活動をしているが、LINEスタンプ・最中など、すごい発想で展開しています。地元の力をいかに産業界に注入するかは課題ですが、今後の活動を期待しています。

【城田弁護士】大人が子どものために設えてあげると子どもは受身になりやすいですが、間に高校生が入ると目線が変わってくるので、事業が違ったものになります。私自身、社会に出た時に受身で暗記して切り抜けてきたものが役に立たず打撃を受けました。地域で育てられた子は優しさ、たくましさ、社会で働く楽しさを身につけ、巣立すると思うので、その観点でコミュニティスクールを推進してほしいです。

【常盤会頭】商工会議所では、仕事に関するご相談などを受付けています。何年前かに平塚工科高校がソーラーカーで連勝していた際に校長先生から相談を受け、100万円の金額を寄付しました。

若い人達にいろいろなことが紹介できますのでご相談ください。

【金森校長】今まで県立高校の場合は市町村とのつながりが薄かったと思います。一方ではキャリア教育の分野では学習支援、進路支援を受けている学校もあります。また、防災関係の対応にコミュニティスクールの意義が大きくなるのではと思います。各学校で工夫しながら進めたいのでよろしくお願いします。

4 コーディネーターによるまとめ

高校生に対しては大学入試制度や新学習指導要領の完全実施などの変化がありますが、変化を脅しに使うのではなく、変化を楽しむ、変化は成長の元という考え方が良いと思います。第2次大戦から75年経ち、世の中は劇的に変わっているのです。働き方、会社のあり方、雇用環境も価値観も変わるのが当たり前で、日本人はうまく対応しています。トヨタは戦争をしないために国産で燃費のいいものを目指し、壊れる車を売り始めて、名古屋の人たちは応援する意味で車を買って今のトヨタに至ります。地域とコミュニティスクールの関係も同じようなところがあると思います。子ども達のためにこれからの変化に期待しましょう。

